No. 13 (1998. 4.28) ISSN 0919-343X

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目　次

◆巻頭言（山中　聡）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
◆事務局から
評議委員会編集委員会合同会議開催される・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
学会費値上げの提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
和名検討委員会及び用語集改訂委員会の設置について・・・・・・・・・・・・・・3
1998年 日本線虫学会 国際シンポジウム ＆ 第６回大会のお知らせ・・・・・・・・4
◆記　事
世界線虫学連盟（ＩＦＮＳ）ニュースから（真宮靖治）・・・・・・・・・・・・・10
◆私がいちばん興味を持った牧野等・非耕地の線虫（後藤　昭）・・・・・・・・・・12

巻頭言

山中　聡（ＳＤＳバイオテック）

景気の低迷、金融ビックバンなど世間では、これまでにない変化が訪れているようですが、それらに影響されることなく季節は普遍に繰り返し、また春がやってきました。先日、名古屋への出張の折、新幹線の車窓から外を眺めていると、東京から名古屋まで、桜前線を逆走するように車外の桜の木々が茶色からつぼみを付けて赤く色づく木々に変わり、やがて先端に花が少し出始め、ちょうど名古屋に着く頃から満開の桜に巡り合うことができました。このニュースレターがお手元に届く頃にはその花もすでに散り、新緑の若葉が息吹いている頃と思います。

日本線虫学会も学会としての活動が開始され、若葉が息吹くように、これからよりアクティブな活動をしていくべき時期ではないかと感じています。その中で今年の山場はやはり夏に開催されるＩＣＩＰ（国際無脊椎動物病理学会）での昆虫病原性に関与する線虫関連のセッション、それに引き続き開催されるつくばでの有用線虫に関する国際シンポジウム、そして明治大学での本学会第６回大会でしょう。特に有用線虫について今年はクローズアップされることでしょう。

有用線虫の研究に携わっているものとして、これらの線虫をより有効に利用するためには、基礎研究と応用との密接な連携が必要と思っており、これに付いて少しふれたいと思います。どの分野もそうですが、自然科学における研究は、これまで明らかになっていない事象を解明することを前提としています。そして、その結果は、その

時代ごとの社会的な問題の技術的解決に役立ち、社会に貢献していくことが必要であると考えています。従って得られた研究結果が社会でどのような形で役立つのか、そのビジョンを研究者はテーマ設定時にイメージすべきではないでしょうか。

とは言っても、研究者の所属研究機関の形態は様々で、国公私立大学、自治体、半官半民・私企業など多方面にわたり、研究分野は同じでも目的や成果の内容が異なります。一見、実用化には程遠いような研究がありますが、一般人には想像できない基礎技術を研究して100年後にはやっと応用されるという例もあるので、一概には言えません。しかし、現在の立場で応用、実用に近い分野で仕事をしていると、この部分に多少のズレがあるのではと感じます。

生物農薬の研究を例に取ると、簡単に基礎研究から応用、実用への流れは以下のように示すことができます。

①有用生物の単離、分類、生物学的性質の解明
→②有用生物の選抜、活性評価、培養検討
→③大量生産、製剤化
→④効果、薬害実証試験研究
→⑤実用化。

研究素材は別として様々な研究機関が各項目ごとに同じようなテーマで研究に携わっていると思いますが、それぞれがその部分で深く入り込むだけではなく、次のステップのことを考えながら進めていく必要があります。理想的な手法で実用化をイメージするのではなく、現実の技術の中で利用できる手法を考えねば、効果のある素材でも全く見向きもされず、徒労に終わってしまうでしょう。このようなことを述べたのは、線虫研究分野で大学、国公立研究機関、企業の研究層の薄さを感じているからです。層の薄さをカバーするには、より密な連携を保っていくことが重要です。

次に研究層を厚くさせるにはやはり学校教育の充実です。特に線虫研究分野の教育は、高校以下ではほとんど皆無といっても良いでしょう。線虫を実際の実験対象とはしなくても研究材料として扱うようなプログラムを構築して普及につとめることを考えても良い時期ではないでしょうか。実用化される技術が多ければ多いほど、また基礎研究の力が増加して良い循環が回り始めます。少しでも多くの実用技術を蓄積していきたいものです。

巻頭言の最後に、本年8月31日に「つくば交流センター」で開催される"*Recent Development of Biological Control by Beneficial Nematodes*"では線虫の実用化の最先端で活躍している研究者を一同に集めて、その一端を講演してもらう予定になっています。本研究分野の方々ではなくても発想のヒント、技術レベルの把握など、意義あるものと考えていますので是非ご参集ください。

(つくば国際シンポジウム総括責任者、評議員)

事務局から

1．評議委員会・編集委員会合同会議開催される

本年3月30日、名古屋大学農学部にて標記会議が開催されました。従来、評議委員会は大会開催に合わせ年1回行っていましたが、大会開催が秋期に固定化されつつあり、予算立案時に評議委員の意見集約の場がないこと、今後各種委員会を設け学会の活性化を図るための討議・情報交換がさら

に必要なことなどから、今後年２回評議委員会を開催することが合意されました。主な議題および採択事項は以下の通りです。なお、清水 啓評議委員（学会事務局長）から、転勤（海外勤務）に伴い役職を辞したい旨要望があり、水久保隆之評議委員（農水省農業研究センター）の事務局長への就任（本会会則第 12 条）、前回選挙で次点であった三輪錠司氏（日本電気㈱）の評議委員への就任（同第 13 条）がそれぞれ承認されました。

２．学会費値上げの提案

前述の評議員会編集委員会合同会議で、学会費の値上げが検討されました。学会の一般会計執行状況は、予算収入に対し慢性的に支出超過となっています。これまでは繰越金を取り崩すことにより、表面上は赤字を計上することなく学会を運営してまいりました。97 年度の予算執行状況でも、繰越金を除く純収入は 1,564 千円であるのに対し、支出は 2,187 千円で、差し引き 623 千円の赤字となっています。赤字は繰越金で穴埋めしてきましたから、来年度の繰越金（次期繰り越し収支差額）は 1,385 千円から 761 千円に減少します。このため、98 年度会計までは繰越金による赤字の穴埋めが可能ですが、99 年度会計収支は実質的に赤字に転じます。この理由で、本年９月開催予定の定期総会で１～２千円の個人会費値上げ、および団体会員（営利企業団体）の賛助会員への移行を提案したい旨を評議員会に諮り、承認されました。会員の皆様には是非逼迫した会計事情にご理解を賜りますようお願い申しあげます。

今後のスケジュールとしまして、本年８月発行予定の本会ニュースに具体的な事務局案を提案し、９月の定期総会にて審議・議決したいと思います。事務局案作成に際しご意見がございましたら、本会事務局まで提案願います。

３．和名検討委員会及び用語集改訂委員会の設置について

評議員会編集委員会合同会議において、標記の２委員会の設置が検討され、下記のとおり採択されました。両委員会は評議員会の諮問機関に位置づけられます。検討委員会の趣旨と委員構成等の概略を紹介します。

１）和名検討委員会

趣　旨：日本線虫学会評議員会の諮問機関として和名検討委員会を設置し、線虫の和名を検討する。

委員長：皆川　望（取りまとめ責任者）

委　員：水久保隆之、荒城雅昭、平田賢司、奈良部　孝

検討方針：

①植物寄生性線虫の和名を検討する。

②昆虫病原線虫、*Caenorhabditis elegans* は当面検討対象としない。

③すでに定着した和名は原則として変更しない。

④属、科、目等の和名は原則として変更しない。

⑤分類学的位置づけの変更、種小名の綴りの訂正等国際動物命名規約に関わる提案は行わない。

公　示：新和名を本年 12 月の日本線虫学会誌に公示する。

２）用語集改訂委員会

趣　旨：日本線虫学会評議員会の諮問機関として用語集改訂委員会を設置し、線虫学関連学術用語集（1977 年刊行）を改訂する。

委員長：水久保隆之

委　員：評議員及び評議委員が推薦した適任者

改訂方針：

①委員はワーキンググループとして分担執筆に当たる。

②英和・和英両訳とし、和文用語には必要に応じ短い解説文を付す。

③線虫学会への発展的再編成の過程で医学、海洋生物学、*C. elegans* 関係等、様々な会員を迎えた現状に鑑み、これらの諸分野で使用される学術用語も盛り込む。

④従来の慣用訳を尊重する。同じ用語が研究分野で異なって訳されている場合は、分野を明記し、これらを併記する。

⑤付録の「線虫の学名－和名」、「線虫による植物の病名」、「殺線虫剤」、「線虫形態図」を残し、充実を図る。「線虫による動物病名」、「*C. elegans* の細胞系譜」等の掲載も検討する。

刊　行：200 頁程度の冊子として、2000 年３月を目途に線虫学会より刊行する。

４．１９９８年日本線虫学会つくば国際シンポジウム＆第６回大会のお知らせ

前回ニュースでも概略をお伝えした通り、標記集会を下記の通り開催しますので、ご案内申し上げます。運営の都合上、それぞれ開催場所（事務局）および申し込み方法が異なります。下記の要領を熟読の上、参加申し込みをよろしくお願いします。

◎全体日程：

８月 31 日（月）　つくば国際シンポジウム（科技庁研究交流センター、つくば市）

9:15-17:00　シンポジウム（講演 10 題）

17:30-19:30　懇親会（ホテルグランド東雲）

９月１日（火）　第６回日本線虫学会大会（明治大学生田校舎、川崎市）、１日目

13:00-13:30　総会

13:30-17:30　一般講演

18:00-20:00　懇親会（明治大学）

９月２日（水）　同、２日目

10:00-15:00　一般講演

（講演申込数により多少調整）

◎詳細案内

1998 年

日本線虫学会つくば国際シンポジウム

“Recent Development of Biological Control by Beneficial Nematodes”
- Post ICIP Symposium in Tsukuba, 1998 -

１．事務局

〒305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-1
農業研究センター 線虫害研究室
Tel 0298-38-8839, Fax 0298-38-8837
E-mail mizu@narc.affrc.go.jp
総括責任者：山中　聡（評議員、SDS バイオテック）
Tel 0298-47-0302

２．会場

科学技術庁研究交流センター：つくば市竹園 2-20-3

案内図は p. 6 にあります。

３．プログラム

Symposium program (Tentative titles)

9:15-9:20　Steering for the symposium
Dr. S. Yamanaka (SDS Biotech K.K., Japan)

9:20-9:30　Opening speech
Dr. Y. Mamiya, President of JNS (Tamagawa Univ., Japan)

9:30-10:00 Key note address
“Beneficial nematodes: What is the art of the possible”

Dr. J. M. Webster
(Simon Frazer Univ., Canada)

10:00-10:30 "Physiological studies on desiccation survival"
Dr. D. Wright (Univ., of London, Imperial College, UK)

10:30-10:45 Break

10:45 -11:15 "Recent advances in Cost 819 on entomopathogenic nematodes"
Dr. N. E. Boemare
(Univ. of Montpellier, France)

11:15-11:45 "Can scavengers impact biological control by entomopathogenic nematodes?"
Dr. H. K. Kaya
(Univ. of California, Davis, USA)

11:45-13:00 Memorial photo & lunch time

13:00-13:30 "Possible integrated biocontrol of soil pests with mixed/combined application of entomo/fungivorous nematodes, BT, and *Pasteuria penetrans*"
Dr. N. Ishibashi
(Saga Univ., Japan)

13:30-14:00 "Biocontrol with nematodes in Korea"
Dr. H. Y. Choo
(Gyeonsang National Univ., Korea)

14:00-14:30 "Problems in the prevalence of entomopathogenic nematodes in Japan"
Mr. M. Kinoshita
(SDS Biotech K.K., Japan)

14:30-15:00 Break

15:00-15:30 "Further possibilities of entomopathogenic nematodes"
Dr. Robin Bedding (CSIRO, Australia)

15:30-16:00 "Approaches for the improvement of the liquid culture potential"
Dr. D. Segal (Tel-Aviv Univ., Israel)

16:00-16:30 "Formulation of nematodes for storage"
Dr. P. Grewall (Ohio State univ., USA)

16:30-17:00 Discussion & resolution
Drs. Kondo and Kaya

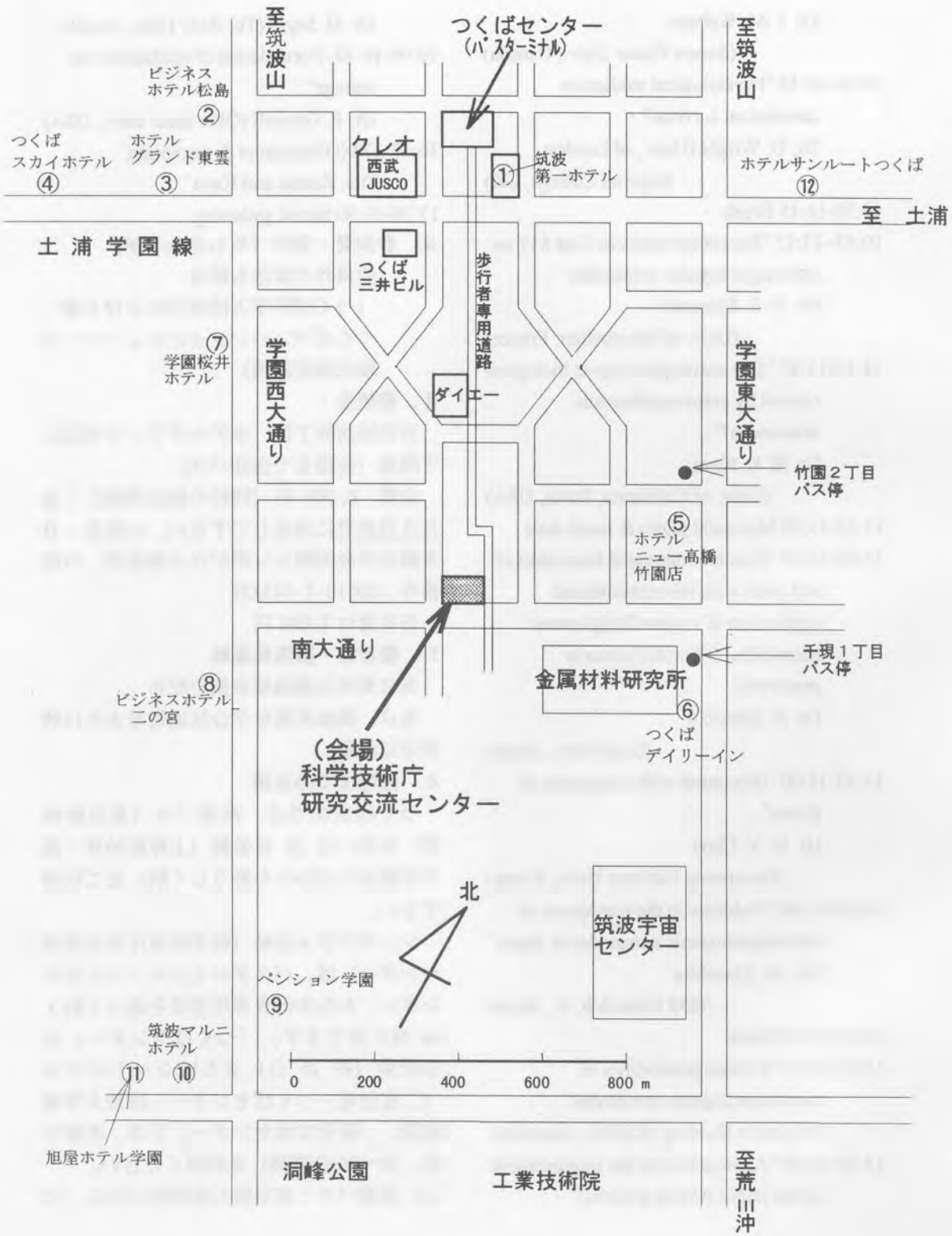
17:30-19:30 Social gathering

3．参加費：無料（申し込み不要）
会員外の参加も歓迎
（つくば科学万博財団および土浦・つくばコンベンションビューローの助成制度利用）

4．懇親会：
当日講演終了後、ホテルグランド東雲にて開催（会場まで送迎バス）
会費　6,000 円（同封の振込用紙にて**8月3日まで**に送金して下さい。口座名：日本線虫学会国際シンポジウム事務局、口座番号：00110-7-34342）
当日受付 7,000 円

5．要旨集・講演成果集
当日簡単な講演要旨集を配布
後日、講演原稿を学会誌通常号または特別号に掲載

6．会場までの交通
つくば市までは、高速バス（東京駅始発）あるいは JR 常磐線（上野駅始発：荒川沖駅またはひたち野うしく駅）をご利用下さい。
シンポジウム会場（科学技術庁研究交流センター）は、バスターミナル「つくばセンター」から歩行者専用道路を通って約 1 km 南にあります。「つくばセンター」から徒歩（約 15 分）またはシャトルバス（二宮団地－つくばセンター－筑波大学病院間、「研究交流センター」下車、所要3分、20～30 分間隔）を利用ください。
1）高速バス：東京駅八重洲南口から「つ


至筑波山
つくばセンター
(バスターミナル)
至筑波山
ビジネス
ホテル松島
②
つくば
スカイホテル
④
ホテル
グランド東雲
③
クレオ
西武
JUSCO
①
筑波
第一ホテル
ホテルサンルートつくば
⑫
至 土浦
土浦学園線
つくば
三井ビル
歩行者専用道路
⑦
学園桜井
ホテル
学園西大通り
ダイエー
学園東大通り
竹園2丁目
バス停
⑤
ホテル
ニュー高橋
竹園店
南大通り
千現1丁目
バス停
⑧
ビジネスホテル
二の宮
金属材料研究所
⑥
つくば
デイリーイン
(会場)
科学技術庁
研究交流センター
北
筑波宇宙
センター
ペンション学園
⑨
筑波マルニ
ホテル
⑪
⑩
0
200
400
600
800 m
旭屋ホテル学園
洞峰公園
工業技術院
至荒川沖

筑波研究学園都市ホテル協同組合加盟店料金一覧

この情報は1996年8月段階の情報です。

ホテル名	室料	サービス料	小計	消費税	合計
ホテルサンルートつくば 0298(52)1151	S 6,500 S 6,100 T 11,700	650 610 1,170	7,150 6,710 12,870	214 201 386	7,364 6,911 13,256
トレモントホテル 0298(51)8711	S 7,500 S 8,000 T 13,000	750 800 1,300	8,250 8,800 14,300	247 264 429	8,497 9,064 14,729
つくばデイリーイン 0298(51)0003	S 5,500 T 10,000			165 300	5,665 10,300
つくばスカイホテル 0298(51)0008	S 6,200 T 10,600			186 318	6,386 10,918
ホテルニューたかはし竹園店 0298(51)2255	S 5,800 T 9,000			174 270	5,974 9,270
ホテルニューたかはし高野台店 0298(36)1110	S 6,000 T 10,000			180 300	6,180 10,300
学園桜井ホテル 0298(51)3011	S 6,350 T 12,000				6,350 12,000
旭屋ホテル学園店 0298(55)0311	S 6,000 T 11,000			180 330	6,180 11,330
旭屋ホテル本店 0298(36)1611	S 5,500 T 10,000			165 300	5,665 10,300
ホテルグランド東雲 0298(56)2211	S 6,364 S 6,637 T 11,299	636 663 1,129	7,000 7,300 12,428	210 220 327	7,210 7,520 12,800
筑波第一ホテル 0298(52)1112	S 9,200 T 14,500	920 1,450	10,120 15,950	304 478	10,424 16,428
ペンション学園 0298(52)8603	S 5,500 T 10,000				5,500 10,000
ホテル松島 0298(56)1191	S 5,500 T 8,000				5,500 8,000
ホテルニュー鷹 0298(51)4788	S 6,500 T 11,000			195 330	6,695 11,330

http://www.softlab.is.tsukuba.ac.jp/~jiro/hotel.html

98/04/10

くばセンター」行きが 15 分間隔で出ています（所要時間 1 時間～1 時間 30 分、料金 1,250 円）。

2）JR 荒川沖駅：東口から「つくばセンター」経由「筑波大学中央」行きバスが 1 時間に 2～3 本間隔であります（東大通りに沿って路線バスは走ります）。「千現(せんげん)一丁目」で下車、徒歩約 10 分（0.8km）です。（参考：つくばセンターまで所要 23 分 460 円）

3）JR ひたち野うしく駅：西口から「つくばセンター」経由「筑波大学中央」行きバスが 1 時間に 3～4 本間隔であります（西大通りに沿って路線バスは走ります）。「東新井南」で下車徒歩約 10 分です。（参考：つくばセンターまで所要 23 分 500 円）

4）自家用車：「常磐自動車道」を利用される場合は、谷田部（やたべ）または桜・土浦インターチェンジで降りて、研究学園都市方面に向かいます。会場は、学園東大通りと学園西大通りにはさまれており、南大通りに面しています。無料の駐車場があり、利用できます。

第 6 回日本線虫学会大会

1．事務局

〒214-8571　神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1
明治大学農学部有害動物研究室
八重樫隆志
TEL 044-934-7026, FAX 044-934-7902

2．会場

大　会：明治大学生田校舎中央校舎 6 階 AV ホール
懇親会：同　第一校舎 3 号館農学部会議室
(会場案内図は p. 9 にあります。)

小田急線生田駅下車（急行電車は停車しませんのでご注意下さい。急行停車駅「向ケ丘遊園駅」で乗り換えて 1 駅）、徒歩約 13 分、または「向ケ丘遊園駅」北口よりバス「明大正門行」約 15 分。

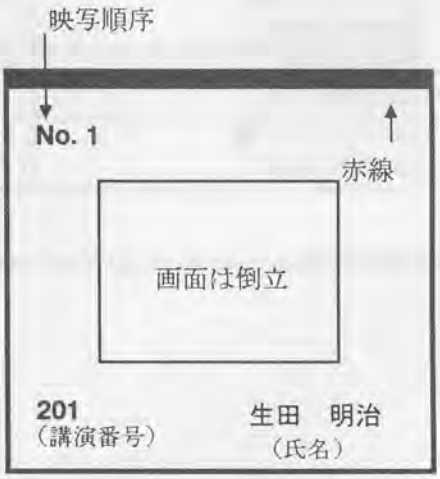
3．参加費：大会参加費 2,000 円
(学生 1,000 円、
当日一般参加 3,000 円)
懇親会費 5,000 円
(当日申込 6,000 円)

4．参加及び講演申し込み：

大会参加を希望される方は、1998 年 7 月 6 日（消印有効）までに参加費を添えて大会事務局までお申し込み下さい。送金は、郵便為替（口座名：日本線虫学会第 6 回大会事務局、口座番号：00270-4-88798）をご利用下さい。年会費・国際シンポジウム等とは別口座ですので、ご注意下さい。

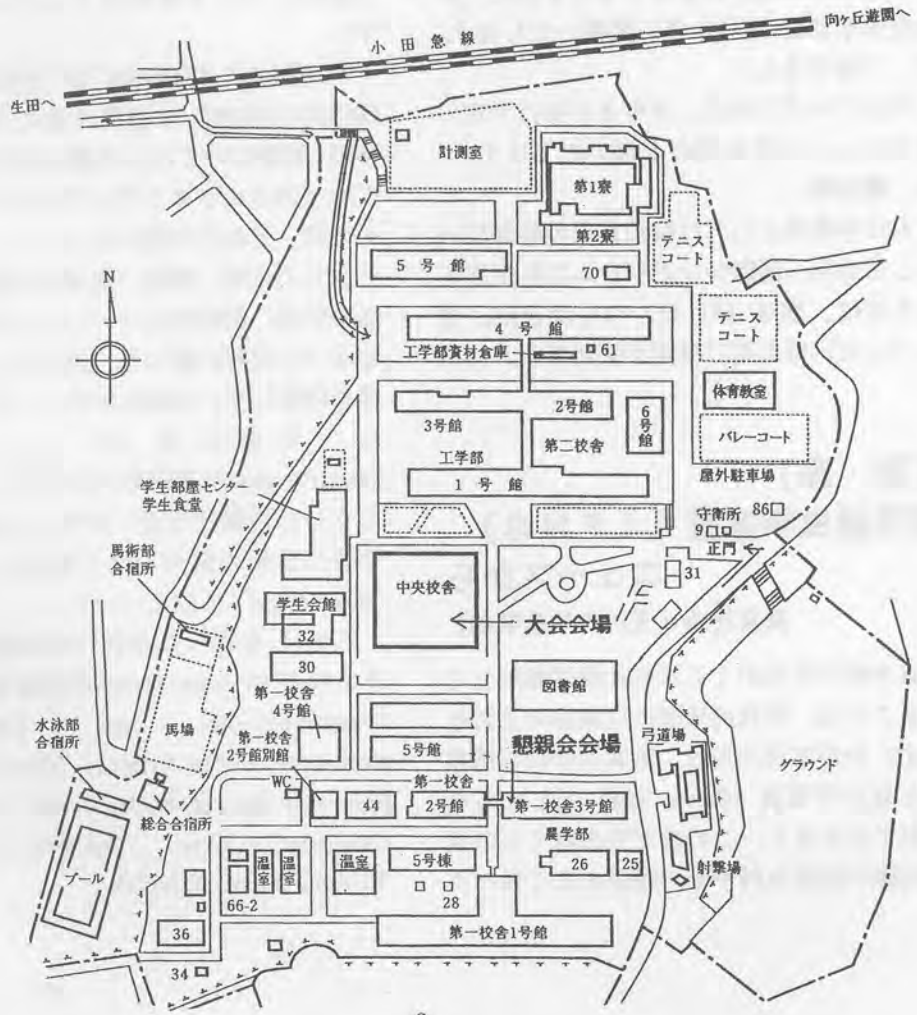
5．講演発表：

講演申し込みは 1 人 1 題とし、本会会員に限ります。講演発表は、討論時間を含めて 1 題 15 分を予定していますが、申し込み数によって多少変更することがあります。講演に使用する図表などは 35mm のスライドとし、講演一題につき 10 枚以内として下さい。各スライドの光源側には、講演番号、演者名、挿入方向（矢印または赤線）、映写番号を付けて下さい。



明治大学生田校舎への交通案内

明治大学生田校舎建物案内図



６．講演要旨の作成：

講演要旨は、1998 年 7 月 6 日までに大会事務局（明治大学農学部有害動物学研究室内）宛に、原本およびコピー２部を添えてお送り下さい。講演要旨は、B5 判横書き、１行 45 字、全体 700 字以内を目安に作成して下さい。要旨には、１行目から日本語で演者名、続けて括弧（ ）内に所属、一字空けて演題、一字空けて上記の事項の英文表記を続けて記載して下さい。本分は行を改めて次の行から始めて下さい。上下左右の余白を 2.5cm として下さい。講演要旨集は送付された用紙をそのまま写真製版して作成します。見本（p.13）も参照して作成されるようお願いします。講演要旨集は大会時に参加者に配布するとともに、日本線虫学会誌 28 巻 2 号に掲載いたします。

７．プログラム：

大会プログラムは、本年８月発行予定の本会ニュース第 14 号に掲載いたします。

８．宿泊等：

大会事務局としては宿泊施設の斡旋はいたしません。国際シンポジウムにも出席される方は、初日（31 日）つくば宿泊、翌日（１日）東京周辺宿泊が便利です。

［記　事］
世界線虫学連盟（ＩＦＮＳ）ニュースから

真宮靖治（玉川大学農学部）

日本線虫学会がＩＦＮＳに機関参加していることは、会員の皆様には周知のとおりです。わが学会からは、佐賀大学の石橋教授と私が評議員（Councilar）として名を連ねております。このまだ生まれて日の浅い組織の活動方針やその経過を広く知ってもらうべく、当面はそれぞれの機関のニュースを利用させてもらいたいということで、会長（Dr. Ken Barker, North Carolina State University）から NEWS PAGE-IFNS 掲載の依頼がありました。そこで、その一部を以下に訳出いたします。

その誕生以来の９ヵ月間に、連盟が最初に取り組んだ活動は、内部組織（IFNS-Committee structure）の確立であった。その組織のもと、2002 年の第４回国際線虫学会議開催候補地の選定作業を開始した。加盟各国学会に開催が可能かどうかを検討するよう要請したところである（注：日本線虫学会もその要請を受けており、開催の可能性について検討することにしています）。

当連盟を”YEARBOOK OF INTERNATIONAL ORGANIZATIONS”に登録するに当たって、IFNS 加盟のいずれかの線虫学会に加わっている国々のリストアップをまず行った。その際、それらの国々について、加盟学会、それらの目的、構成、経済的事情、主要な活動状況、国際的なイベントの有無、出版物なども同時に調べた。現在のところ、連盟を構成している線虫学会は 12 で、それらの学会には 110 以上の国の Nematologisits がそれぞれ所属している。こうした情報は今後、IFNS の評議員や各学会の会長の協力をえて整理し、連盟の”Home Page”に加えていく。

E-mail を通じた話合いの結果、以下のような IFNS-Committees が組織された。

Communications and Information Exchange: Safia Siddiqi (Chair)
Finance: Martie Botha-Greef (Chair)
Congress Site Selection/Program: Thierry Vrain (Chair)

Operations Manual: Ken Barker (Chair)
（注：真宮は最初の委員会に加わっており、石橋先生は Finance の委員となっています）

Congress Site Selection/Program 委員会は、2002 年の第４回国際線虫学会議の開催に向けて積極的に活動を始めており、これまでに開催地選定のためのガイドラインを各学会に示し、それに従って開催が可能かどうかを検討するよう求めた。検討結果の回答期日は 1998 年８月１日までとなっていて、最終的結論は同年 10 月 31 日までに出すことが予定されている。そのほかの委員会も、それぞれの目標に向かって活発な活動を始めている。

日本線虫学会にとって、当面の課題となるのは、第４回国際線虫学会議開催を引き受けることができるかどうかを検討して、その結論を出すことです。評議員会を中心に慎重な検討を行いたいと思っています。会員の皆様のご意見をいただければ幸いです。

私がいちばん興味を持った牧野等・非耕地の線虫

後藤　昭（元農業研究センター）

私は以前農林水産省あるいはその指定試験（長崎県）に勤めていましたので、１）南西諸島を含む九州の線虫相、２）ミナミネグサレセンチュウの生態と防除、３）サツマイモネコブセンチュウの発生生態と輪作による防除、４）連作障害と線虫の問題、のような実用的な問題の解決や、線虫研究室の建設に力を注いでいました。

しかし、私がいちばん興味を持ったのは、植物寄生性線虫の分布問題、非耕地の線虫相でした。非耕地関連で調査対象としたのは、開墾後間もない畑地、里山のような林地、牧野、九州では九重山や雲仙岳のような山岳地を含みます。

若干まとまりかけたのは、全国の牧野に関する調査でしたが、それも属段階までとネグサレセンチュウに止まりました。

今回この方面に関する自著と抄録を整理しましたので、関心をお持ちの方は私宛にリストを請求して下さい。

関係の自著・抄録の概要は以下のとおりです。

A．線虫分離法の検討：４編
B．植物寄生性線虫の種類相、分布:10 編
　＊日本の暖地・亜熱帯の線虫
　＊日本のネグサレセンチュウ
　＊各種の立地環境と線虫属
　　水田／畑地／樹園地／原野／林地／山岳地（九州）
　＊高冷地の線虫
C．牧野等・草地の線虫：９編
　＊牧野の線虫の全国調査
　＊自然草地を人工草地に造成した場合の線虫相の変化
D．林地、開墾地の植物寄生性線虫：４編
E．山岳地の植物寄生性線虫調査例：１編

なお、私の自著は全て日本植物防疫協会の「資料館」に寄贈してあります。

連絡先：〒311 埼玉県大宮市
指扇領別所 109-93(2-907)

［編集後記］

◆残暑の候に当る札幌（ＩＣＩＰ）、筑波、生田の連戦ともなるとしんどいかもしれませんが、本学会最大のイベントである第６回大会へ、昨年を上回る

多数の講演が寄せられることを期待しております。

◆植物寄生性線虫の先輩から、牧野等・非耕地の線虫に関する業績のPRがありました。これはまた、農耕地以外の線虫についても興味を持って欲しい、自分の意志を継いで欲しいという呼びかけでもあります。私もたまに林地などでサンプルを採取し、その多様な線虫相に触れることがありますが、その詳しい同定までは中々手が出せません。

◆線虫による農業上の被害は、ほとんどが他所から種苗などにより持ち込まれた線虫が源になっていると考えられます。非農耕地の線虫相が明らかにされれば、ネコブセンチュウやネグサレセンチュウには、史前帰化のものがかなり含まれるといった思わぬ結論が導き出されるかもしれません。

◆日本植物防疫協会資料館が資料の寄贈先として上げられましたが、植物寄生性線虫関係の文献資料を蓄積している研究機関は他にもあります。小生の所属する農業環境技術研究所線虫・小動物研究室など、図書館情報からは把握できないこのような研究機関も今後紹介して行きたいと思います。

◆学会事務局が日本線虫学会のホームページのアドレスを申請しました。いよいよ線虫学会もWWWの世界に乗り出します。次号のニュースでアドレスを掲載し、皆さんに公開することができるとのことです。そこで、本ニュースに、国内外の線虫関係のホームページを紹介するコーナーを設けたいと思います。本ニュースで紹介する線虫関係のホームページを募集します。自薦他薦は問いません。なお、紹介したホームページには、学会のホームページからリンクを張る方向で検討するそうです。

◆本ニュースの原稿を随時募集しています。身近な線虫の話題、諸会議の報告、学会または会員への提案等どのような内容でも結構ですので、下記または最寄のニュース編集担当者までご連絡ください。写真も掲載していこうと考えています。　　(荒城雅昭)

1998年4月28日
日本線虫学会発行
編集責任者　荒城雅昭

農業環境技術研究所
環境生物部微生物管理科
線虫・小動物研究室
〒305 8604
茨城県つくば市観音台3-1-1
TEL：0298-38-8316
FAX：0298-38-8199

日本線虫学会ニュース第13号
編集担当：荒城雅昭・小坂　肇
串田篤彦・立石　靖